アリス・ベイリー著
『テレパシーとエーテル体』

読書会＆シェア会

生命システム研究所

あんどうさわこ・根本泰行

お願い：ZOOMでの表示名を参加申し込みをした時のお名前にしてください。

大祈願

神の御心の光の源より
光をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
光を地上に降(くだ)らせ給え

神の御心の愛の源より
愛をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
キリスト（如来）よ、地上に戻られ給え

神の意志、明らかなる中心より
大目的が人の貧(とぼ)しき意志を導かんことを
如来は大目的を知り、これに仕え給う

我らが人類と呼ぶ中心より
愛と光の大計画を成させ給え
悪の棲処(すみか)の扉を封じ給え

光と愛と力とをもて地上に大計画を復興させ給え

読書会

今日のスケジュール

読書会（21時5分位から1時間）

●担当：根本泰行

シェア会（読書会の後）

●担当：あんどうさわこ

アリス・ベイリー（Alice Ann Bailey, 1880年6月16日 - **1949年12月15日**）

神秘主義関係の著作家で、神智学協会から派生した「アーケイン・スクール（不朽の知恵、秘教占星学）」の創立者。

米国では神智学協会に参加、ここでブラヴァツキーの著書に接し、協会員となった。1920年、アメリカ神智学協会で働く神智学者フォスター・ベイリーと再婚。その前年、大師（マハトマ）のジュワル・クール（英語版）からのメッセージを受け取るようになったという。

1922年、夫妻はルシファー出版社（後年、ルシス・トラスト（英語版）に改名）を設立。1923年、彼女は「アーケイン・スクール」（Arcane School）という団体を創設し、大師から受けたという教えを広めた。

『テレパシーとエーテル体』Telepathy and the Etheric Vehicle. (**1950**)

ジュワル・クール大師（Djwal Khul）**翻訳書3~4頁**

私は他の人々と同じような肉体をまとってチベットの辺境に住んでいる。そして、私の責務が許すときには、（現世的な意味で）時にはチベットのラマ僧の大きな一団を統括している。私がこのラマ寺院の院長であると伝えられているのはこの事実によるものである。

私は一般の学ぶ人々よりも少しだけ長く道を歩み、そのためより大きな責任を背負う、**あなた方の兄弟**である。

私が書いた本は、受け入れるよう要求することなく世に出される。それらは正しく真実で有益なものかもしれないし、そうではないかもしれない。それらが真実であるかどうかを適切な実践と直感の修練によって確信するのはあなた方の役目である。

語られていることが結果として確証に結びつくならば、もしくは、類似（対応）の法則のもとで照らし合せて正しいと思われるならば、それは申し分のないことである。しかし、そうでないならば、言われたことを受け入れてはならない。

テレパシーとエーテル体

Telepathy and the Etheric Vehicle

アリス・ベイリー　著

AABライブラリー　翻訳・発行

第二部　エーテル体に関する教え　……161

1　エーテル体の性質……162
2　非分離の基礎……172
3　惑星と人間のセンター……184
4　センターとパーソナリティー……192
5　空間の性質……203
6　惑星生命――太陽系の一つのセンター……209

アリス・ベイリー原著

https://www.lucistrust.org/online_books/telepathy_and_the_etheric_vehicle_obooks

Telepathy And The Etheric Vehicle

Sub-sections:

- SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 1
- SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 2
- SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 3
- SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 4
- SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 5
- SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1
- SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 2
- SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 3

SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1

TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE

I. THE NATURE OF THE ETHERIC BODY

See Chart *Evolution of a Solar Logos*

Much that I may say here may be familiar to a certain extent, because there is a vast amount of information anent the etheric body scattered throughout my various books. It will have its value however if students can receive in a few pages a general idea and the basic concepts which underlie the teaching—or should I say, the fact? If they have the time, students would find it of profit to re-read what I said; run their eyes rapidly through the books and papers in search of the word "etheric." They will never regret it. Life itself, the training to be given in the future, the conclusions of science and a new mode of civilisation will all increasingly be focussed on this unique substance which is the true form to which all physical bodies in every kingdom in nature conform. Note that phraseology.

2023年9月15日（金）

『テレパシーとエーテル体』
5　空間の性質

203頁、1行目から始めます！

エーテル体に関する広い概括

p.203：1行目以降

- すべての有形の（原著：tangible=触ることのできる）外的な形態との関係におけるエーテル体の存在は、現在では多くの科学的な学派が受け入れている。
  - しかしながら、原初の教えはエネルギーとその表現形態に関する通常の理論に合わせて修正されてきた。
  - 思考者たちは今日、エネルギーの実際の性質を認めている。

【根本私見】

- キルリアン写真によって見出された幻葉（ファントムリーフ）現象
- ハロルド・サクストン・バー教授によって発見された生体を包む電磁場であるLフィールドなど ⇒ 但し、Lフィールドは従来物理学における電磁場である。

キルリアン写真

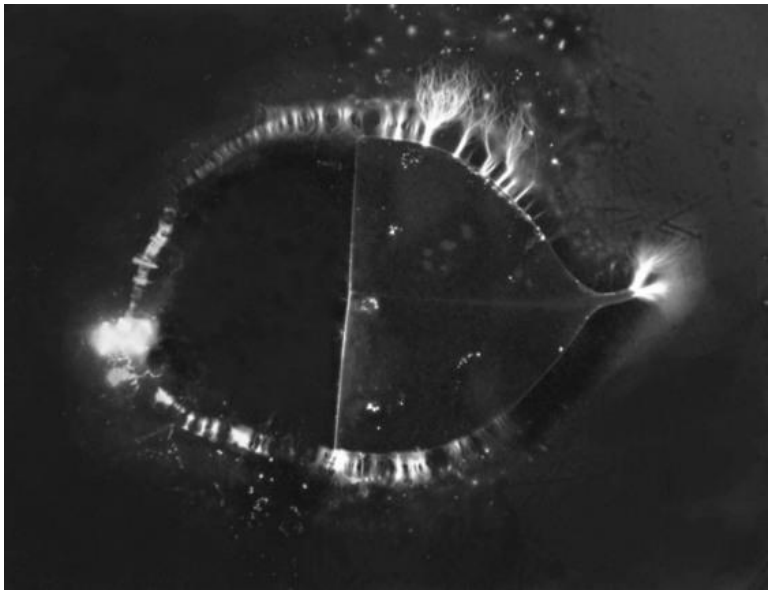
https://honz.jp/articles/-/40385

オーラ!? 不思議なキルリアン写真の世界

作者:谷口 雅彦、川口 友万、出版社:双葉社

発売日:2014-04-09

- キルリアン写真というものを、ご存知だろうか？今から約80年ほど前の1930年代に、旧ソビエト連邦で発明された不思議な写真のことである。発明家ニコラ・テスラの影響を受けた旧ソ連のキルリアン夫妻がその発明者。電気治療器の高周波によって生体から放電が起きていることに気付き、それを撮影しようと試みたことが発端であったという。
- この鉄のカーテンの中で育まれたキルリアン写真が西側諸国にも広く知られるようになったのは1970年代のこと。超能力の研究で博士号をとったアメリカの臨床心理学者セルマ・モスが1970年にソ連を訪問したことがきっかけとなった。手や植物の周りを光が取り囲む不思議な写真は、「オーラを撮影したものではないか？」とも言われ、一気に世の中に知れ渡ることとなったのである。



幻葉（ファントムリーフ）左半分に葉っぱがなくても、元の形に光る。（※著者による再現）

新版 生命場(ライフ・フィールド)の科学
みえざる生命の鋳型の発見

2006/5/27、ハロルド・サクストン・バー 著、神保圭志 訳

https://www.amazon.co.jp/dp/4531081544

1936年、エール大学のハロルド・サクストン・バー教授は、生物の周囲にある生体電場として「Lフィールド」という言葉を提唱した。

- およそ四十年ほど前までは電子機器や電子技術が未発達だった(略)しかし、条件が整ったことで、人間の本質および宇宙における位置づけについて、まったく新しいアプローチが可能になった。というのは人間、いや、あらゆる生物が、正確に測定し、図にあらわすこともできる「動電場」(エレクトロ・ダイナミック・フィールド)の指令と統御のもとにあることを、これらの機器が明らかにしたからである。
- この「生命場」は、ほとんど信じられないほど複雑なものではあるが、現代の物理学で知られている、もっとシンプルな場と同様の性質をもち、同じ法則にしたがっている。物理学的な場のように生命場も宇宙の構造の一部であり、宇宙空間の巨大な力の影響を受ける。そして何千という実験の結果、物理学的な場のように組織化と誘導を行なう性質をもっていることもわかった。
- 動電場は目にみえず、触れることもできないので、想像するのはむずかしい。そこで、この生命場――これから「Lフィールド」と呼ぶことにしよう――は、どういう働きをして、なぜそんなに重要なのかをわかっていただくために、身近な例を使って解説しよう。ハイスクールで科学の授業を受けた人なら、磁石の上に紙を置き、その上に鉄粉をまくと、鉄粉はひとりでに磁場の「磁力線」のパターンを描き出したことを覚えているだろう。鉄粉を入れ替えて別の鉄粉をまいても、まったく同じパターンが再び出現する。
- これよりはるかに複雑ではあるが、よく似たことが人体の中でも起こっているのだ。体内では分子や細胞がたえまなく破壊される一方で、食物から供給される新たな物質によって再生されている。しかし、Lフィールドが統御しているおかげで、新たな分子や細胞が従来どおり再生され、以前と同じパターンに配列されるのである。

エーテル体に関する広い概括

p.203：6行目以降

- 今では、存在するものすべてがエネルギーであると見なされている。
  - 顕現とはエネルギーの海が顕現したものであり、このエネルギーのうち、あるものは形態を形作り、あるものはこれらの形態がその中で生き動き存在するための媒介（medium）になっている。
  - さらに、形態とそれを取り囲む質料的な媒介の両方に生命を吹き込んでいるものもある。

【根本私見】

- アインシュタインによって発見された質量とエネルギーが等価であることを示す式（質量とエネルギーの等価性）⇒ $E = mc^2$

【参考】エーテル体とオルゴンと暗黒物質①

小野山敬一 著、生物学史研究 No.97（2018）p.94-97

1. 質料matterの秘教的分類では、物質界physical planeは7つの亜界に分けられ、上位の精妙な4つの亜界をエーテル界と称している。その下位に濃密物質界として、気体、液体、固体の3つの亜界を設けている（パウエル1925［仲里訳1981/6］）。

   ベンジャミン・クレーム（2010/3, p.21）は、ウィルヘルム・ライヒ Wilhelm Reichが1939年に発見したオルゴンは、「質料の4つのエーテル的諸界に他ならない」と主張した。さらに、「暗黒物質はオルゴンと同じであり、また質料の4つのエーテル界と同じだ」と主張した。すなわち、下記のような同物異名の提案である。

   エーテル界、またはエーテル物質質料［the etheric plane or etheric physical matter of esoteric tradition］

   ＝ 暗黒物質［dark matter of Fritz Zwicky, 1933. Phys. Rev. 43.（see Bertone & Hooper, 2016）］

   ＝ オルゴン［orgone of Wilhelm Reich, 1939］

【参考】エーテル体とオルゴンと暗黒物質②

小野山敬一 著、生物学史研究 No.97（2018）p.94-97

2. ベンジャミン・クレーム（1997/9,p.27）は、1947年のアメリカ合州国ニューメキシコ州でのロズウェル事件に関する質問に答えて、宇宙船と火星人はエーテル質料でできているので、重さを持たない、と述べた。

「乗っていた者たちは、火星から来ていました。墜落は事故ではなく、宇宙船内の各個人の側が故意に行なった犠牲的行為でした。正常には、これらの宇宙船は墜落できません。それらはエーテル質料で作られているので、重さを持ちませんし、破壊されることはあり得ないのです。乗っていた者たちは、その質料の振動率を濃密物質へと故意に降下させて、宇宙船を墜落させました。そうして、わたしたちが、宇宙船と5人の宇宙人が研究できるように、またこの惑星の人類に同一ではないにしろ、確かに似ていると見ることができるようにしたのです。（略）

この太陽系の他の惑星から飛来する宇宙船（地球にも基地はある）が見えないのは、その80％は第1と第2のエーテル体、20％は第3と第4のエーテル体からでできているからだ（Creme1984/5,p.19）という。宇宙船の原子の振動率を下げることで、地球人の視覚に見えるようにしており、正常な振動率に戻すと見えなくなる（Creme1984/5,p.19）と述べた。

形態が形態内に存在すること

p.203：9行目以降

- 形態が形態内に存在することを覚えておくべきである。
  - これは、球の中に球が入っており、そのすべてに精巧な彫刻が施され、そのすべてが自由に動くことができるが限定されている、中国の技芸家が作製する複雑な彫刻が施された象牙の球に見られる象徴の基礎になるものである。⇒ 象牙多層球

象牙多層球

https://bijutsufan.com/bijutune/201611/

- びじゅチューン！『博士、それ象牙多層球ですよ』のモデル（元ネタ）になった美術作品は、19世紀頃に清で作られた象牙多層球（象牙の彫刻）『雕象牙透花雲龍紋套球（ちょうぞうげとうかうんりゅうもんとうきゅう）』。なんと23層もの球体が重なり合ってできているとのこと。どの層の球にも美しく細やかな彫刻が施されています。どの球も独立して動かせるのが特徴です。
- 象牙多層球の作り方は、旋盤を使って象牙から球体を掘りだし、球体の中心に向かって円錐状の穴を複数開け、開けた穴から鉤型の工具を差し込んで1層ずつ球を掘り出していくというもの。そして、それぞれの層に彫刻を施して完成です。

形態が形態内に存在すること

p.203：9行目以降

- 形態が形態内に存在することを覚えておくべきである。
  - これは、球の中に球が入っており、そのすべてに精巧な彫刻が施され、そのすべてが自由に動くことができるが限定されている、中国の技芸家が作製する複雑な彫刻が施された象牙の球に見られる象徴の基礎になるものである。⇒ 象牙多層球
  - あなたは－自分の部屋に座っているとき－形態内の形態である。部屋そのものも家の中にある形態である。
  - その家（もう一つの形態）もおそらく多くの似たような家のうちの一つであり、それは他の家の上にある場合もあれば並んでいる場合もあるが、これらが一緒にさらに大きな形態を構成している。
- これら様々な形態は有形の質料でできており、この質料が－ある思考者のマインドにある構想やアイディアによって統合され一つにされたとき－物質的な形態を創造する。
  - この有形の質料は、生命に満ちたエネルギーでできており、互いに関係し合って振動しているが、それには独自の特質と独自の特質づけられた生命がある。⇒『宇宙の火』参照のこと

宇宙におけるエーテル領域

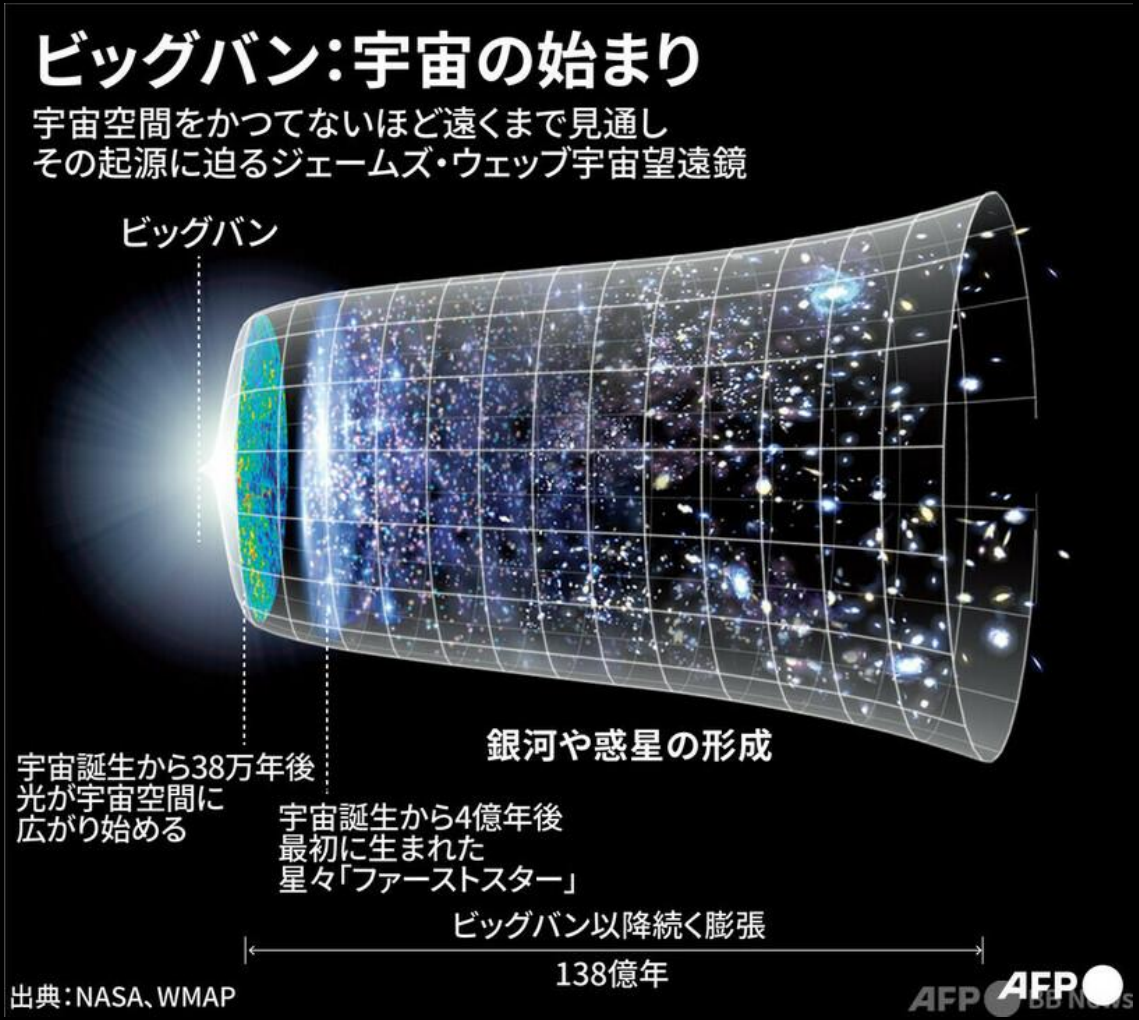
p.204：6行目以降

- 宇宙全体が性質上、エーテル的であり、活力に満ちていること、そしてその時代の最も偉大な知性の理解を超えて広がっており、天文学的な数字をもってしても余りあるほど大きなものであることを指摘するのは有益であろう。
  - この広さは、光年に換算しても、計算不可能である。
  - この宇宙的なエーテル領域は無限なるエネルギーの場であり、すべての占星学的な計算の基礎になるものである。
  - それはすべての歴史周期－宇宙的、太陽系的、惑星的な周期－が演じられる場である。
  - それは、様々な星座、多くの太陽系、遙か遠くにある星々、既知の膨大な数の宇宙、そして私たちの太陽系、多くの惑星、私たちが生き動き存在する惑星、そして科学では「原子」という意味のない用語（根本コメント：原子=atomとはそれ以上分割することのできない最小単位という意味であるが、陽子・中性子・電子などのより微細な構造が存在している）が用いられている微小の生命形態などと関係している。

【根本私見】

- 現代物理学：宇宙は、少なくとも138億光年の広さ以上であると考えられている。しかしながら、宇宙は膨張しているため、実際の大きさは、138億光年よりもはるかに大きいと考えられている。しかしながら、これはあくまで物質界の宇宙の話であり、エーテル界においては、状況は異なっている可能性もある。

- ビッグバン理論は、紆余曲折を経て、観測と理論の両面が揃って徐々に認められるようになってきた歴史がある。
- 20世紀初頭では天文学者も含めてほとんどの人々は宇宙は定常的なものだと考えていた。柔軟な考えを持っていると評価されているアインシュタインですらも「宇宙に始まりがあった」という考えには否定的であった。
- 1922年にソ連の天文学者アレクサンドル・フリードマンが膨張する宇宙のモデルを発表。
- 1927年にはベルギーの司祭で天文学者のジョルジュ・ルメートルが、「宇宙は原始的原子 の“爆発”から始まった」というモデルを提唱。



- 1929年にハッブルは、銀河が地球に対してあらゆる方向に遠ざかっており、その速度は地球から各銀河までの距離に比例していることを発見。
- 1964年に宇宙マイクロ波背景放射が発見されて以降は、宇宙が高温高密度の状態から進化したというアイデアを支持する観測的な証拠が次々に発見され、定常宇宙論よりもビッグバン理論のほうが宇宙の起源と進化を説明するのに都合が良いと考える人が多数派になった。

エーテル的な空間
p.204：後ろから5行目以降

- すべては空間の中に存在している－空間は性質上、エーテル的である。そして、空間は実体である－オカルト科学ではこのように言われている。
  - 人間の栄光は、人間が空間を意識しており、この空間を神の生きた活動の場として想像できるという事実にある。
  - この活動の場は、活動的な知的形態で満ちており、それぞれの形態はこの知られざる実体のエーテル体内に位置し、これらの形態を存在内に保持するだけではなくお互いの位置関係を維持する力によって関係づけられている。
  - これら異なった様々な形態にはそれぞれ、それ自体の特有の生命、独自の特質つまり不可欠な色彩、それ自体の特殊な独自の意識形態がある。

【根本私見】

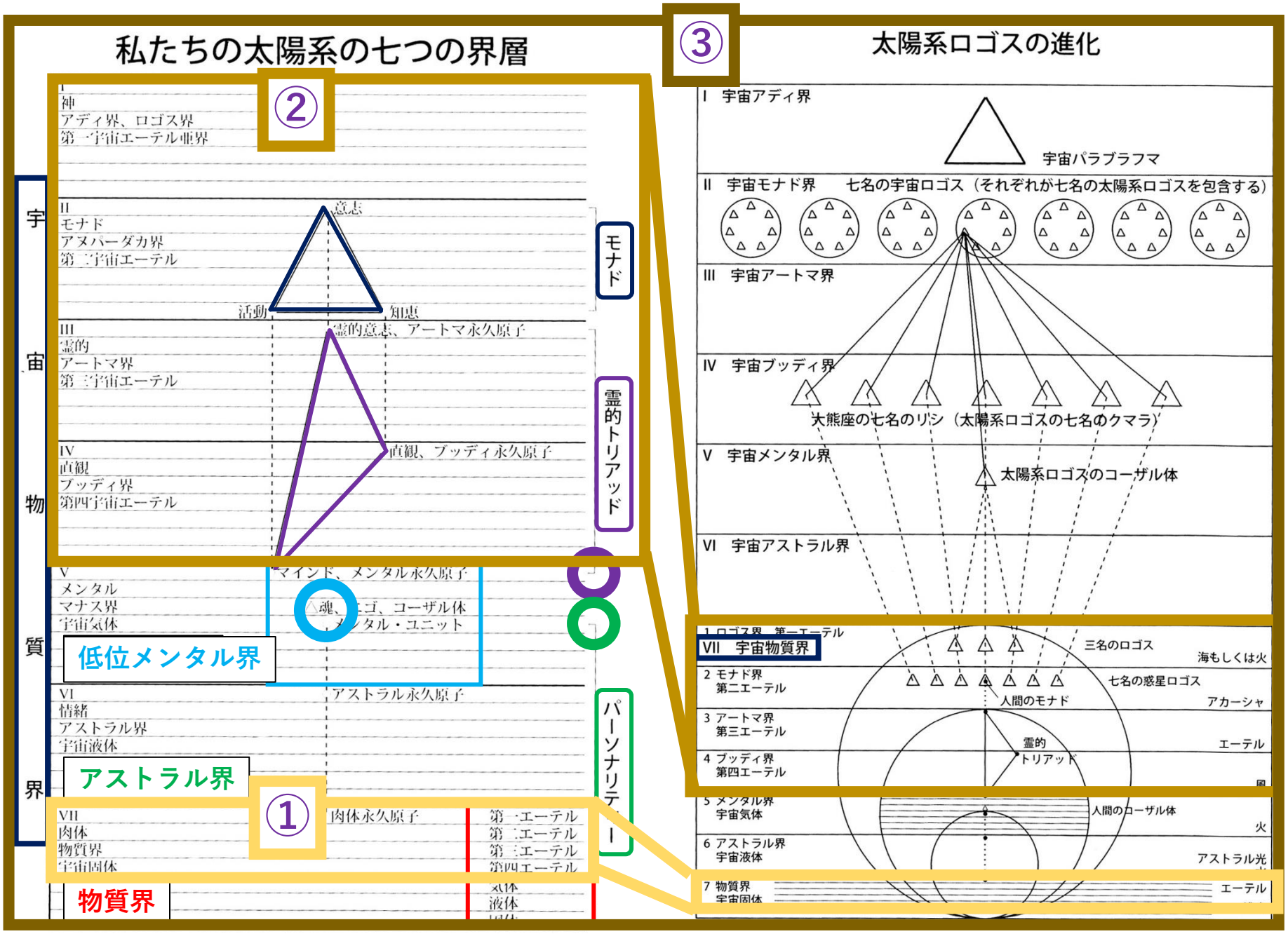
- 宇宙空間を満たしている様々な形態とは、ここでは地球人も含めて、すべての宇宙人を含んでいると思われる。

広大なエーテル体
p.205：3行目以降

- この－知ることのできないほど広大な－エーテル体は、それでもなお、性質に関して限定されており、能力に関して（相対的に言って）静的である。
  - それは、私たちは完全には何も知らないが、知られざる実体のエーテル形態である一つの決まった形態を維持している。
  - この形態に、秘教科学は「空間」という名前を与えている。
  - それは、宇宙から原子に至るまであらゆる形態がその位置を占める固定した領域である。

【根本私見】

- 「性質が限定され、静的な能力しか持たないエーテル体」という表現は、より高次元の界層が存在していることを含意していると思われる。
- エーテル体という表現には以下の3つの意味があり得る（自信はない（^^;））。
  - 「宇宙物質界」の第7亜界である「物質界」の上位4つの層（第1～第4エーテル）
  - 「宇宙物質界」の第1亜界～第4亜界（第1～第4宇宙エーテル亜界）
  - 上記2つの概念を含意しつつ、宇宙全体を繋げている媒体としての「エーテル体」



【根本私見】エーテル体に関する3つの見方

宇宙の拡大は意識の拡大

p.205：8行目以降

- 私たちは時に、宇宙が拡大していると言うが、私たちが実際に意味しているのは意識が拡大しているということである。
  - というのは、この空間という実体のエーテル体は、活気を与え浸透する多くのタイプのエネルギーの受容体であり、宇宙、多くの星座、遠くの星々、私たちの太陽系、太陽系内の惑星、こうした別々の生きた形態の総和を構成するすべてのもの、これらに内在する生命が知的な活動を行う場でもあるからである。
  - それらを関係づける要因は意識であり、それ以外の何ものでもない。
  - 意識的な認識の場は、私たちが空間と呼ぶ偉大な生命のエーテル体の領域内に存在するすべての生きた知的形態の相互作用を通して創造される。

【根本私見】

- 以下の2つのことから、エーテル体は宇宙そのものであるように思われる。
  - エーテル体は、宇宙、星々、太陽系、惑星などのさまざまな形態に内在する生命が知的な活動を行う場である。
  - 知的な活動を行うとすれば、アストラル体やメンタル体の働きも必要になるはず。

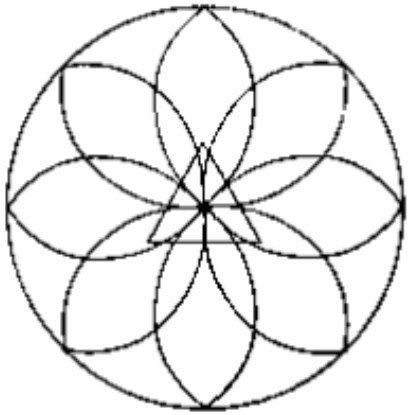
エーテル体内の形態はセンターである

p.205：後ろから4行目以降

- このエーテル体内の各々の形態は惑星や人体にあるセンターのようなものであり、－人間のセンターに関してここで説明したことに基づく－類似性は正確であり、認識可能である。
  - 各々の形態は（質料的な生命や原子の集合領域であるため）、それが構成部分である形態のエーテル体内の一つのセンターである。
  - それには、その存在の基礎として、形態を統合して本質的な存在内に維持する生き生きとしたダイナミックな点がある。
  - この形態つまりセンターは－大きくても小さくても、人間であれ質料の原子であれ－他のすべての形態と関係し、周囲の空間においてエネルギーを表現しており、あるものを自動的に感受しながらも、他のものは認識できないために（根本訳：認識しないというプロセスを通して）拒絶する。
  - それは、他の形態から放射される他のエネルギーを中継つまり伝達することで、それ自身も印象づける媒介になっている。
  - したがって、別々の真理がそれぞれ互いに接近し融合している場合には、事実に基づく同じ真理やアイディアを表現するために、同じ用語を使うことになるのが分かるであろう。

【根本コメント】「エーテル体内の形態」∝「人間のセンター」という意味であって、同じ用語の例として「放射領域」「エネルギーの三角形」が挙げられると思われる。

【復習】人間のセンターの四つの様相



1つのセンターの象徴的な描写

1. 中心にある点…モナド
2. 関連エネルギー（花弁）…魂
3. 放射領域（円）…パーソナリティー
4. エネルギーの三角形…霊的トリアッド

センター間の相互作用と「唯一の生命」

p.206：7行目以降

- センター内にある生命の点にはそれぞれ、それ自体の放射領域つまりそれ自身の影響範囲の広がりがある。
  - この領域は必然的に、内在する意識のタイプと性質によって決まる。
  - 天文における－宇宙、太陽系、惑星間の－関係すべての基礎になっているのは、空間における無数のエネルギー・センター間のこの磁力的な相互作用である。
- 形態を磁力的、受容的、拒絶的、放射的にするのは「意識」様相であることを銘記しておきなさい。
  - この意識は、大小のセンターを通して、活力を吹き込み作用する実体の性質に応じて様々である。
- すべてのセンターに流れ込み、空間全体に活気づける生命が一つの実体の生命であることも銘記しておきなさい。
  - したがって、それはすべての形態内にある同じ生命であるが、内在する意識の意図、希望、形態、特質によって時空間内に限定されている。
- 意識のタイプは数多く多様であるが、生命は永遠に同一で不可分のままである。なぜなら、それは「唯一なる生命」だからである。

放射領域と基本的な三重性

p.206：後ろから2行目以降

- 放射領域は常に、形態内の生命の進化段階によって条件づけられる。
  - センターを相互に関係づけ統合する要因は生命そのものである。
  - 生命は接触を確立する。
  - 活発さ（原著：livingness 生きていること）があらゆる関係の基礎である。
  - 意識は接触を特質づけ、その放射を色づける。
- このようにここでも、私が以前の本（『秘教心理学・第1巻』）で生命と特質と外観と呼んだのと同じ基本的な三重性に立ち返ることになる。
  - したがって形態とは、惑星のような生命ある活気に満ちた存在の場合、その実体のエーテル体のある様相つまり空間内にある生命のセンターである。

【参考】『秘教心理学・第1巻』（p.49−50）

- 生命・特質・外観という用語を、よく使われている霊・魂・肉体、もしくは生命・意識・形態という三位一体と言い換えてもかまわない。
  1. 生命…霊、エネルギー、父、神の第1様相。電気の火。
  2. 特質…魂、第2様相、神の子、父（霊）と母（物質）の間に生まれた子。
  3. 外観…物質、形態、客観的表現。第3様相であり、母である。摩擦の火。

【根本私見】内容が重複すると思われる箇所

- 306頁7行目…さらに、センター内にある生命の点にはそれぞれ、それ自体の放射領域つまりそれ自身の影響範囲の広がりがある。この領域は必然的に、内在する意識のタイプと性質によって決まる。
- 306頁後ろから2行目…放射領域は常に、形態内の生命の進化段階によって条件づけられる。
- 207頁6行目…このセンターには生命の点があり、センターは周囲のすべてのエネルギーと関係している。センターにはそれ自体の放射領域つまり影響範囲があり、その放射領域は、その意識の特質もしくは強さ、および魂を吹き込む実体の思考生活のダイナミックな条件づける要因によって決まる。

【根本私見】唐突に感じられる箇所

- このようにここでも（← この表現が何を指しているのかよく分からない）、私が以前の本（『秘教心理学・第1巻』）で生命と特質と外観と呼んだのと同じ基本的な三重性に立ち返ることになる。

エネルギーの中心的な三角形

p.207：9行目以降

- 結局のところ、すべてのセンターにはエネルギーの中心的な三角形があり、これらのエネルギーの一つは、形態に魂を吹き込む生命を表現しており、もう一つのエネルギーはその意識の特質を表現し、第三のもの――一つの表現力に富んだ活発さにおいて形態と意識を一つにまとめるダイナミックな統合する生命――は、形態の放射、周囲のエネルギーに対するその感応性や非感応性、活気づける生命の全体的な性質、その創造的な能力を条件づけている。

↑ 根本コメント：明確には理解できない。①形態、②意識、③生命ということか？

【根本私見】

- エネルギーの中心的な三角形とは、
  - 霊的トリアッドのこと（191頁、後ろから3行目）。
  - ブラヴァツキーの言う人間の「周期的な媒体」を条件づける3つの光線を示している ⇒ モナドの光線、魂の光線、パーソナリティーの光線（201頁、後ろから8行目）
- いずれにしても、エネルギーの中心的な三角形は三位一体を意味している。
  - 生命・特質・外観、霊・魂・肉体、生命・意識・形態
  - 霊的トリアッド…霊的意志・直観・マインド（⇒ モナド：意志・知恵・活動の反映）
  - モナド・魂・パーソナリティー

秘教占星学とラヤ・ヨガ

p.207：後ろから5行目以降

- 私がここであなた方に伝えてきた多くのものは、秘教占星学について私が書いたもの（『秘教占星学』を参照）を解明するのに役立つであろう。
  - それは、本質的には占星学とラヤ・ヨガの科学を解明する鍵である関係の科学を解明する鍵を提供するものである。
  - このラヤ・ヨガの科学は（アーリア人種＜＝現代人種＞にとっては幸運にも）後期アトランティス時代以降は評判を落としてきた。しかし、その科学は次の500年の間により高い螺旋上で復興され、用いられるであろう。
  - その科学が正確かつ適切に復興されたとき、その重点は、関係するセンターの性質ではなく、特定のセンターを特徴づけ必然的にその放射領域を条件づける意識の特質に置かれるであろう。
- 偉大な対応の法則のもと、ここで私が伝えて示してきたものはすべて、あらゆる生命形態、つまり宇宙、太陽系、惑星、人類、下位王国の形態、微細な質料の原子に（この最後の用語、つまり微細な質料の原子があなた方にとってどのような意味があるかにかかわらず）適用できるものである。

【参考】

- ラヤ・ヨガ（Laya Yoga）…ラヤ・ヨガはハタ・ヨガの奥義とされ、ラヤとは帰入する、没入するという意味。クンダリニーとの合一を目指す。クンダリニー・ヨガともいう。

お知らせ

生命システム研究所

https://life-system-labo.com/

- ホリスティックヘルス情報室（降矢英成先生）主催 [ZOOM & 会場]

「ホリスティック 意識科学」連続講座

日時：① 7月26日（水）19：15～21：15『宇宙究極の謎』とは？
② 8月23日（水）19：15～21：15『宇宙の創造原理』について
③ 9月27日（水）19：15～21：15
『意識の定義』と『意識の二階層論』について
④ 10月25日（水）19：15～21：15
現代の『意識科学』が現代社会に与える影響について

内容：1時間30分：根本の講義、30分：降矢先生との対談
受講料：2時間 × 4コマ 17,600 円（税込）
チラシ：https://www.hichelth.com/202307_holIshikiS.pdf

✓ 既に終了した回については、録画視聴をすることによって、途中から申し込まれることも可能です。

ホリスティックヘルス情報室（赤坂溜池クリニック付属）

「ホリスティック意識科学」連続講座

＜ゲスト・スピーカーズ・レクチャー＞
科学の常識を変えるともいわれる
「意識科学」の本質を解説

① 7月26日（水）：『宇宙究極の謎』とは？

- 「なぜ、この宇宙は無ではなくて、存在しているのか」という「問い」を、私は『宇宙究極の謎』と呼んでいます。私見では、この「問い」に対する「答え」は存在しませんが、「答え」が存在しないということから、興味深い一つの倫理的な原理を引き出すことができます。

② 8月23日（水）：『宇宙の創造原理』について

- この宇宙には根源的には唯一の存在が存在していると私は考えており、その存在を私は『絶対無限の存在』と呼んでいます。『絶対無限の存在』は予測できない体験したいと思ったので、みずからを無数に分割した上に、分身のそれぞれに自由意志を与えました。分身の一つ一つが私たちである、と私は考えています。

③ 9月27日（水）：『意識の定義』と『意識の二階層論』について

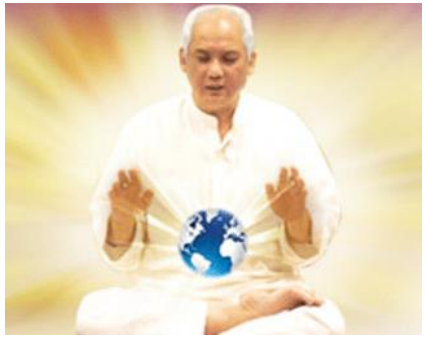
- 私は「意識」について、「『絶対無限の存在』から生まれた分身のそれぞれが、実際にこの世界を体験するために作られたシステムのことである」と定義しています。そして「意識」は物質世界のみならず、高次元世界にも存在しており、後者の「意識の本体」は死後も存続すると考えています。

④ 10月25日（水）：現代の『意識科学』が現代社会に与える影響について

- 現代の『意識科学』においては、ほとんどの研究者が、以下の2つを前提としています：唯物論…意識は脳が作り出している／進化論…ヒトの進化過程のどこかで、脳が複雑さを獲得した時に、意識は創発した。私見では、いずれも誤りであるのみならず、これらの考え方は、現代社会において大きな悪影響をもたらしています。

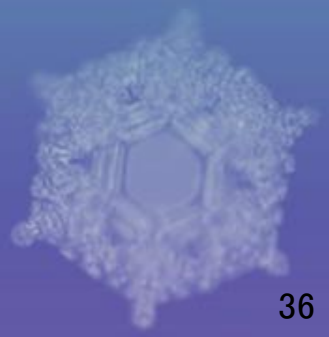
満月ツインハート瞑想会

毎月満月の日の21時～22時に、ZOOM上で無料で開催します。
初心者大歓迎！　聖なる愛と光を地球全体に送るための瞑想法です。



- 2023年9月29日（金）21時～22時、担当：あんどうさわこ
- 2023年10月29日（日）21時～22時、担当：根本泰行
- 2023年11月27日（月）21時～22時、担当：あんどうさわこ
- 2023年12月27日（水）21時～22時、担当：根本泰行

必ずウエブサイトから申し込んでください。
https://life-system-labo.com/2022-3twinheart/

2023年1月22日より、毎月新月の日の21時からアリス・ベイリー著『テレパシーとエーテル体』の読書会とシェア会を開催しています。ウエブサイトから申し込んでください。

シェア会